



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

スペイン領カナリア諸島で火山が噴火

溶岩が流れ出し住民 5 0 0 0 人避難(2021/09/20)



50 年ぶりに火山が噴火した、大西洋のスペイン領カナリア諸島のラパルマ島では、溶岩の流出が続いていて、これまでに住民などおよそ 5000 人が避難したほか、住宅およそ 100 棟が燃えるなどの被害が出ています。

スペイン領カナリア諸島のラパルマ島では 19 日、島の南部にあるクンブレビエハ火山が 50 年ぶりに噴火し、溶岩が流れ出しました。噴火から一夜明けた 20 日の映像では、住宅がある地区まで溶岩が到達し、住宅が燃えている様子が確認できます。

また、上空からの映像には、山から流れ出した溶岩が広い範囲の住宅や道路などを飲み込み、白い煙が上がっている様子も映っています。

地元当局などによりますと、噴火の前に地震が頻繁に観測されていたことなどから、近くの住民はすでに避難し、人的被害は出ていませんが、地元当局が広範囲にわたって避難を呼びかけ、これまでに住民や観光客合わせておよそ 5000 人が避難したということです。

また、スペインのメディアなどによりますと、住宅およそ 100 棟が溶岩に飲み込まれるなどの被害が出ているということです。



スペイン領カナリア諸島
赤い丸は噴火が起こったラパルマ島



住宅の後方を流れる溶岩

地震や台風や噴火などの自然災害は毎年多くの場所で発生していますが、私たちはそれらを避けて生活していくことはできません。しかしその被害を少なくすることはできます。そのことを「減災」と呼びます。減災のためにも私たちは災害がどのようにして起こるのか知り・学び・考えることは大切です。シンガポールに住んでいて自然災害を被る機会が少ない皆さんでも、そうすることでもし日本に帰ったとき災害が発生しても落ち着いて命を守る行動をとれる可能性が高くなります。

今回のカナリア諸島での噴火も多くの被害を与えましたが、そこに住んでいた方々はすぐに避難し自分の命を守ることができました。これも普段から減災の意識を高くもっていたからだと報じられています。このような災害が起こったとき、ご家族で自然災害について話し、考えてみてください。そしてそれが減災への第一歩となればとても嬉しく思います。(北山)